行動中心アプローチの原理に基づいた日本語教育機関における授業の分析

Analysis of Teaching in Japanese Language Institute
Based on the PRINCIPLES OF THE ACTION-ORIENTED APPROACH

久保田 文子*,　合田 美子*' **,　久保田 真一郎*' **
Fumiko KUBOTA,　Yoshiko GODA,　Shin-Ichiro KUBOTA

＊ 熊本大学大学院 社会文化科学教育部 教授システム学専攻
** 熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構
*Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University
** Research and Education Institute for Semiconductors and Informatics, Kumamoto University

＜あらまし＞ 日本語教育機関において行動中心アプローチを取り入れた授業を設計できるようになることを目的にフレームワークを開発することを目指し，本研究では行動中心アプローチを念頭において設計・実施された授業をその原理に照らして分析した．その結果，目標・評価・方法の整合性,活動への没入感,複言語･複文化主義の実践に課題があることが明らかになった．
＜キーワード＞ 行動中心アプローチ，日本語教育の参照枠，授業分析

1. はじめに

2021年10月に文化審議会国語分科会より「日本語教育の参照枠」が報告された．これは,「ヨーロッパ言語共通参照枠」（以下, CEFR）をもとに開発された，日本語学習・教授・評価のための枠組みである．この中で,「行動中心アプローチ」（action-oriented approach）が示され,「行動中心アプローチにおける言語教育の目標とは、言語の使用者及び学習者がそれぞれの社会で求められる課題を遂行できるようになることである」と説明されている．

法務省告示日本語教育機関(以下,告示校)に在籍する留学生のほとんどは日本での進学や就職を希望しており，多くの留学生にとって告示校は日本社会への入口となる．第一著者の所属する告示校では，コミュニケーション重視ではあるが，言語知識を増やすための授業やコミュニケーションのためのコミュニケーション活動も多く，学生が日本社会で行動できるようになる教育が行われているとは言いがたい.「行動中心アプローチ」ということばは広く知られているが，どのように行動中心アプローチを取り入れ学生のニーズに合わせた教育をデザインするか，各教師が考えられるようになってはいない．

告示校において各教師が行動中心アプローチを取り入れた授業を設計できるようになることを目的にフレームワークを開発することを目指し，本研究では第一著者が設計・実施した授業を分析した．Piccardo（2014）は, PRINCIPLES OF THE ACTION-ORIENTED APPROACH（以下, AoA原理）と「授業への提案」を示しており, 分析はAoA原理に照らして行った．

2. 行動中心アプローチの授業実践

分析は，第一著者が 2023 年4月から6月まで告示校において実施した授業を対象とする．中級前半レベル（CEFR では B1），学生数18名のクラスで, 授業科目は「話すこと」である．ほとんどの学生が日本での進学希望であるため「10月から始まる入試の面接に対応するため,自分の夢や進学希望を具体化し,（事前に準備をすれば）それらを端的に効果的に人に伝えることができる」を学習目標として90分／週2回／10週間，実施した．

授業を設計したのは 2023 年3月で，第一著者はその時点での自分の理解の範囲で行動中心アプローチを念頭に置いて授業設計を行った．具体的な要点は，学生にとって重要な課題である入試面接を取り上げ，学習目標と評価を最初に定めてバックワードデザインで授業を設計したこと，また，学生の発表準備や動画共有アプリ Flip でのモニタリングなど，方略を意識した活動や自己評価やピア評価の機会を取り入れたことである．

その後，授業実施期間中（2023年5月）に

AoA 原理を知ったため，当初の予定を変更し新たに追加した活動もある．例えば，学生が自分で活動のポイントを見つけられるようなふりかえりや，学生が個々の目標に応じて学習できる個人作業である．

3. 結果と考察

2023 年 6 月に授業がすべて終わってから授業の全体について AoA 原理に基づいて第三著者と議論して気づいた点をまとめ，AoA 原理ごとに表１に示した．この分析から主に３つの課題が明らかになった．

1） 目標・評価・活動の整合性
課題分析と「日本語教育の参照枠」の活用が不十分であったためと考えられる．

2） 学生の活動への没入感
学生による決定の機会がない，学生が文脈には入れ込める授業の流れになっていないなど，学生が活動に没入できるか疑問が残る．

3） 複言語・複文化主義
母語や自文化とのつながりや相違点について学生が考え，気づきを言語化できる機会がない．

今後はこれらの課題をもとに対象授業の改善を試みる．その後，別の学習目標であっても行動中心アプローチを取り入れた授業が設計できるようフレームワークを開発し，ID 専門家と日本語教育専門家のエキスパートレビューを実施する．改善したフレームワークで別の授業設計を行い，その授業を告示校で実施して，その効果を検証する．

参考文献

Enrica Piccardo（2014）From Communicative to Action-Oriented：Poster, https://transformingfsl.ca/wp-content/uploads/2015/12/FINAL_CSC605_poster_English_01.pdf（参照日 2023.6.18）

文化審議会国語分科会（2021）「日本語教育の参照枠」報告, https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf （参照日 2023.6.18）

表１ AoA 原理からの対象授業の分析 *1: Piccardo（2014）「授業への提案」からキーワードを抽出した

AoA 原理（原文のまま）	キーワード *1	対象授業での実践と AoA 原理からの分析	
The learner is a social agent	・authentic activities ・students' ownership of the goals ・individual learning and sharing	授業実践	authentic activities として，入試での面接を取り上げた． 動画共有アプリ Flip を活用し個々の練習の成果を全員で共有した．
		分析	各授業の目標や内容は教師から与えられたものばかりで students' ownership of the goals とは言えない．
The learning process is strategic, reflective and transferable	・learning strategies ・reflection ・self-assessment	授業実践	中間評価を行い，その気づきを最終評価に活かせるようにした． ふりかえり，自己評価，ピア評価を適宜，取り入れた．
		分析	学生がストラテジーを認識し，より効果的な使用を学べるようになるために，ストラテジーの明示的な学習を取り入れるべきである．
Tasks are unifying tools	・Organize knowledge and skills ・action-oriented tasks ・planning learning paths	授業実践	最初に評価基準を決め，そこから授業活動を組み立てた． ペアでの活動と個別の作業と両方を組み合わせて授業を進めた．
		分析	課題分析が不十分で，活動と目標が合致していない時があった． もっと活動を文脈化し学生が積極的に取り組めるようにすべきである．
Plurilingualism is different from multilingualism	・languages aren't learnt in isolation ・links between languages ・learners' linguistic capital	授業実践	母語で話し合ったりメモしたりすることを促すことがあった． 母語ではどのように伝えるか，教師からの問いかけを適宜行った．
		分析	学生が効果的なコミュニケーションについて話し合ってから，母語と日本語のつながりに気づくようなリフレクションの時間が必要である．
The cultural dimension is omnipresent	・words are culturally connotated ・representations of reality ・learners' cultural trajectories	授業実践	教師から「皆さんの国ではどう？」という問いかけを適宜行った． 面接の態度や服装についてペアで紹介しあう機会を作った．
		分析	日本と自文化の共通点と相違点，日本で求められる態度とどのような選択するかなどを話し合う機会があれば，さらに気づきを深められる．
Competences are numerous and differentiated	・linguistic competences ・general competences ・activities to develop competences	授業実践	ペアでのおしゃべりは言語運用能力を意識して，ただ話すだけではなく，毎回注力点を学生と共有しながら練習を行った．
		分析	学生の能力を伸ばすためには，授業設計の時点でどのような能力を伸ばそうとしているのかを明確にし，学生にも共有しておく必要がある．
Assessment is multidimensional and present from the beginning	・Make use of assessment different goals ・different assessment tools ・share responsibility with learners	授業実践	毎回授業の最初に授業目標を伝え，最後にセルフチェックをさせた． 最後の授業では，その授業目標をすべて振り返って自己評価させた．
		分析	学生が客観的に自分を評価できるようになってきたのはよかったが，課題分析が不十分だったため，学習目標と評価基準にずれがあった．